

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 9 月 9 日現在

機関番号：12501

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16H03440

研究課題名(和文) グローバル社会の多様な英語に対応する聴解力を養成するためのCALL教材の開発

研究課題名(英文) Development of a CALL System Focusing on Global Englishes

研究代表者

高橋 秀夫 (Takahashi, Hideo)

千葉大学・国際教養学部・教授

研究者番号：30226873

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、グローバル化を迎えた我が国の大学英語教育の目的のひとつを「世界で使われる英語を理解する能力の育成」と捉え、英語国の人々とのコミュニケーションだけでなく、アジア、ヨーロッパ、中東、アフリカ等、世界中の人々と英語を使用してコミュニケーションを行う能力を養成するためのOnline グローバル英語CALL 教材を開発することである。研究の結果、米、英、豪の大学に留学する学生へのインタビューを中心に3つの教材が開発され、留学を目指す日本人大学生に使用される。

研究成果の学術的意義や社会的意義

千葉大学では、音声コミュニケーションの基礎能力を聴解力と捉え、米、英、加、豪でビデオ収録を行い、数多くのCALL教材を開発してきた。しかしグローバル化を迎えた我が国においては、英語を母国語としない人々の英語を理解する能力の養成も急務である。外国語として英語を話す場合は、当然母国語の母音体系、子音体系、超文節音素体系、音節体系などの影響が現れ、日本人英語大学生にとってそれらを理解することは必ずしも容易なことではない。そこで本研究では米、英、豪の大学で学ぶ各国からの留学生のインタビューをもとに3種のCALL教材の開発を行った。これらのCALL教材の開発は他に例を見ない、独自のものである。

研究成果の概要(英文)：The purpose of the present study was to develop three English CALL teaching materials which help Japanese college English learners understand global Englishes around the World. Filming was done at the University of Alabama (US), Imperial College London / Queen Mary University of London / Arts University Bournemouth (UK), and Monash University (Australia). The courseware was developed by the collaboration of Japanese English teachers and English native teachers. The developed CALL materials will be used online for the students who wish to study abroad in the world.

研究分野：英語教育

キーワード：CALL 英語教育 聴解力養成 グローバル英語

## 様式 C-19、F-19-1、Z-19（共通）

### 1. 研究開始当初の背景

千葉大学言語教育センターでは、音声コミュニケーションの基礎能力を聴解力と捉え、1994年からアメリカ英語を中心に、自然な速度で発話された英語を聞き取る力を養成する CALL システムの開発に努めてきた。2007年度からは、学習対象とする英語の範囲をイギリス英語、オーストラリア英語、カナダ英語に広げ、それぞれの英語や文化を習得するための CALL 教材を開発し、さらに世界の英語ニュースを聞き取るための CALL 教材、そして専門分野の英語の理解を目的とした教材の開発も行い、計 19 種の様々な英語聴解力養成教材の開発を行った。これらの教材は、主に 1、2 年次学生の一般教養の英語授業で使用され、半期で TOEIC が 55～56 点上昇するなどの効果が検証されている。また開発された教材は千葉大学だけでなく、これまでに国内の多数の大学でも使用され、日本人大学生の実用英語コミュニケーション能力の養成に寄与してきた（竹蓋他、2005）。

しかしながらグローバル化を迎えた我が国においては、上記の範疇におさまらない英語能力の養成が求められるようになった。それは英語を母国語としない人々の英語を理解する能力の養成である。外国語として英語を話す場合は、当然、話者の母国語の母音体系、子音体系、超文節音素体系、音節体系などの影響が現れ、日本人大学生にとってそれらを理解することは必ずしも容易なことではない。もちろん世界の英語をくまなく網羅し、学習することは不可能としても、日本人英語学習者が「最大公約数」としての英語圏の英語を上述の教材で学び、基礎力を身に付けた上で、世界の英語、つまり「グローバル英語」のうち、アジア圏、ヨーロッパ圏、アフリカ圏、中東圏の英語といった代表的なものを聞いて理解できるようにするという応用力、実践力を獲得することは、現代の国際情勢を鑑みた場合、グローバル化を掲げる我が国の大学英語教育においては、重要な課題であると考えられる。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、グローバル化を迎えた我が国の大学英語教育の目的のひとつを「世界で使われる英語を理解する能力の育成」ととらえ、英語圏の人々とのコミュニケーションだけでなく、アジア、ヨーロッパ、中東、アフリカ等、世界中の人々と英語を使用してコミュニケーションを行う能力を養成するための「Online 型グローバル英語 CALL 教材」を開発することである。具体的には、アメリカ、イギリス、オーストラリアの大学で学んでいる留学生たちに対するインタビューを中心に教材を開発する。

### 3. 研究の方法

平成 28～29 年度は米国アラバマ大学でビデオ収録を行い、アラバマ大学で学ぶ留学生に大学や街の紹介をしてもらうとともに、アメリカ人学生や教員にインタビューをしてもらう形で素材を収集した。これはネイティブの英語も学べるようにするためである。また南部訛りのある現地の人にインタビューしたビデオも加えた。収集したビデオは 1 分半から 2 分のビデオクリップ 18 編に編集され、1) University of Alabama, 2) Students at ELI, 3) Students at CLC, 4) Local People の 4 つのユニットにまとめられた。

平成 17 年度には不足する静止画、動画の収集を現地で行うとともに、研究代表者、分担者によってコースウェアの開発が行われた。コースウェア開発の基礎となる学習理論には研究代

表者の所属する教育機関で独自に開発された「三ラウンド・システム(竹蓋・水光,2005)」が使用された。三ラウンド・システムとは自然な速度で発話された英語を学習者に難しいと思わせないで、少しずつ聞き取れるようにすることを可能とした指導理論で、本学のCALL教材は、すべてこの学習理論を基盤としている。

開発されたコースウェアは独自で開発したオーサリングツールによりビデオ、音声、静止画ファイルと統合され、総ページ数約2000、静止画面数500、音声ファイル数1000、動画ファイル数18のCALL教材(English around the World)の開発が終了した。教材の起動画面は図1に示した。

平成29～30年度は、イギリスのImperial College London / Queen Mary University of London / Arts University Bournemouthでビデオ、静止画収録を行い、学部、大学院で学ぶ留学生の英語を中心に教材、Study Abroad in the UKを開発した。開発された教材は20編4ユニット(Arts Uni Bournemouth, Imperial College, Queen Mary Uni, Residents & Visitors)からなる。起動画面は図2に示した。

平成30～令和1年度はオーストラリアのモナシュ大学で学ぶ各国からの大学生、大学院生、および英語センターで英語を学ぶ学生、それに教職員へのインタビューを中心とする。開発されたWorld Englishes in Australiaは20編のビデオ、5ユニット(City of Melbourne, High Spots in the City, Monash Uni, Monash College, Faculty & Stuff)から構成される。

#### 4. 研究成果

開発された教材の学習画面例を図4～6に示した。図4は米国版教材English around the Worldのメニュー画面である。図1～3の起動画面を含め、画面の作成には教材のトピックとなっているものの写真をできるだけ加え、意欲を持って学習に取り組めるべく興味深いものにするよう努めた。図5は典型的な学習画面の一例である。学習は4択の問題に答えるという形式ではなく、画面に提示されるタスク(課題)の答を種々のヒント情報や辞書情報を活用しな



図1 米国版教材の起動画面



図2 英国版教材の起動画面



図3 豪州版教材の起動画面

がら、学習者が自らビデオを操作し、答えを見つけるといった問題解決作業を行いながら学習を進める。正解例は画面に表示され、正否は自己判断する。さらに正解確認後、英文を見ながら再度英語を聞いて確認するとともに、文法の注意事項や文化的事柄、コミュニケーションの技術に関する解説を読んで学習を深める。現在国内の大学で使用されている英語 CALL 教材には4 択、空所補充といった形式に特化しているものが多いが、それはテストで「どれだけできるようになったか評価をするプロセス」である。学習とは「できなかったことができるようになる過程」であり、その指導を行うのが我々の CALL システムの最大の特徴である。



図 4 米国版教材のメニュー画面



図 5 英国版教材の学習画面例

図 6 は豪州版教材の学習途中にあるコラム記事である。ビデオ収録は行ったものの、総学習時間の関係で割愛した内容や各国の文化、歴史、ユニークな習慣を端的に示すことながらを写真、ビデオとともに短い記事でまとめたもので、動機づけの効果を考慮し、学習休憩時に異文化を楽しめるよう配置した。この例ではオーストラリア固有のウォンバットとタスマニアデビルを例にあげ、その特徴や生態、鳴き声などをテキストと写真、ビデオを使用して紹介している。

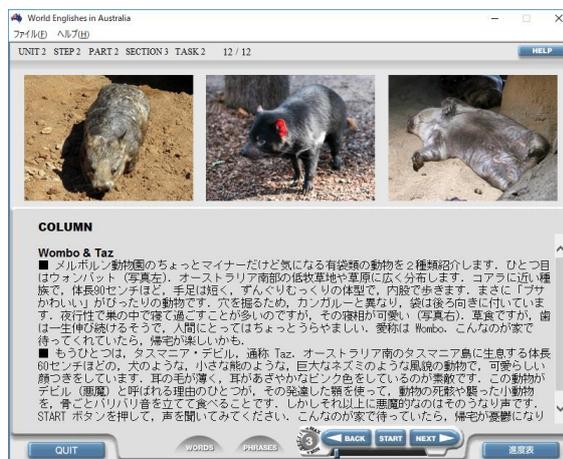


図 6 豪州版教材中のコラム画面例

開発された教材は、アメリカ、イギリス、オーストラリアに留学を考えている学生には最適な教材であると考えられる。限られた人数への学生の試用ではあるが、「留学への関心が湧いた」という意見が寄せられている。これらの教材は今後、研究代表者が所属する千葉大学以外での大学でも使用される予定である。

竹蓋幸生，水光雅則編著、『これからの大学英語教育：CALL を活かした指導システムの構築』  
岩波書店，東京，2005。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 村川修平, 高橋秀夫	4. 巻 3
2. 論文標題 大学初級学習者用英語文法力自動評価システム	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国際教養学研究	6. 最初と最後の頁 45-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20776/S24326291-3-P45	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 土肥充, 与那覇信恵, 岩崎洋一, 竹蓋順子, 高橋秀夫	4. 巻 2
2. 論文標題 自由記述によるCALLシステムの評価結果の分析	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国際教養学研究	6. 最初と最後の頁 95-118
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20776/S24326291-2P95	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 桑原市郎, 中村亮太, 高橋秀夫	4. 巻 1
2. 論文標題 スマートフォン用英語語彙学習アプリLanternの開発および高校英語中級学習者への指導	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 国際教養学研究	6. 最初と最後の頁 79-90
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) <a href="http://doi.org/10.20776/S24326291-1-P79">http://doi.org/10.20776/S24326291-1-P79</a>	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 桑原市郎, 高橋秀夫, 中村亮太
2. 発表標題 スマートフォン用英語語彙学習アプリLanternの開発および高校英語中級学習者への指導
3. 学会等名 外国語教育メディア学会 ( L E T ) 第56回全国研究大会
4. 発表年 2016年

## 〔図書〕 計4件

1. 著者名 高橋秀夫, 土肥充, 竹蓋順子, Sarah Morikawa, Luke Harrington, 与那覇信恵	4. 発行年 2019年
2. 出版社 千葉大学	5. 総ページ数 約2000
3. 書名 Study Abroad in the UK (CD-ROM/Online 英語CALL教材)	

1. 著者名 高橋秀夫, 土肥充, 竹蓋順子, Luke Harrington, Sarah Morikawa, 与那覇信恵	4. 発行年 2018年
2. 出版社 千葉大学	5. 総ページ数 約2000
3. 書名 English around the World (CD-ROM/Online 英語CALL教材)	

1. 著者名 高橋秀夫, 土肥充, Daniel Jenks, Sarah Morikawa, 竹蓋順子, 与那覇信恵, 桑原市郎	4. 発行年 2017年
2. 出版社 千葉大学	5. 総ページ数 約2000
3. 書名 Doorway to the UK (CD-ROM /Online CALL教材)	

1. 著者名 高橋秀夫, 竹蓋順子, 与那覇信恵, Luke Harrington, Sarah Morikawa, 土肥充	4. 発行年 2020年
2. 出版社 千葉大学	5. 総ページ数 約2000
3. 書名 World Englishes in Australia (CD-ROM /Online CALL教材)	

## 〔産業財産権〕

〔その他〕

3SSメニュー

<http://call.f.chiba-u.jp/h5/menu/index.html>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	土肥 充  (Doi Mitsuru)  (00323428)	國學院大學・教育開発推進機構・教授    (32614)	
研究分担者	竹蓋 順子  (Takefuta Junko)  (00352740)	千葉大学・国際未来教育基幹・准教授    (12501)	
研究分担者	与那覇 信恵  (Yonaha Nobue)  (30522198)	千葉大学・国際教養学部・准教授    (12501)	
研究分担者	ハリントン ルーク  (Harrington Luke)  (70636274)	千葉大学・国際未来教育基幹・特別語学講師    (12501)	
研究分担者	森川 セーラ  (Morikawa Sarah)  (80506882)	千葉大学・国際教養学部・准教授    (12501)	